

生活困窮者への食糧支援をしている北区の認定NPO法人「セカンドハーベスト名古屋」の活動を支援する自動販売機が十四日、長久手市の愛知淑徳大長久手キャンパスでお披露目された。学生や教員らが利用する研究棟に設置され、売上げの一部が同法人へ寄付される。

同法人は、企業や農家などから寄付された食品を生活用困窮者へ無償で提供する「フードバンク」の活動に取り組み。今回、「コカ・コーラ ボトラーズジャパン」が活動への協力を申し出て、コーヒーやココアなどのカップ式自販機を研究棟一階の入り口付近に設置。同法人のロゴが入ったラッピングも施した。

同法人の前川行弘理事長（左）は自販機を通して「フードバンク」という言葉や法人の名前を知って興味を持つ機会になってくれれば、ありがたい」と期待。同社

# 自販機で人助け



セカンドハーベスト名古屋の活動を支援する自動販売機。長久手市の愛知淑徳大長久手キャンパスで

## 愛知淑徳大 売上げ一部 フードバンクに

ベンディング愛知北支店の奥野馨支店長（右）は「今後も賛同してもらえる企業や学校、施設に設置を広がっていきたい」と話した。

同大はこれまでも消費期限が迫った災害用備蓄品の食料を同法人へ寄付している。今年は、活動に賛同した学生がフードドライブの団体「PASSREL（パズレル）」を立ち上げた。学生や教員から集めた食料を、豊田市の保見団地や長久手市の県営住宅に住む子どもたちに届ける活動を半年ほど続けている。

同団体代表で、ビジネス学部三年の村松優さん（左）は「フードバンクやフードドライブという言葉は知っていても何をしているのかわからなかったり、何もできていなかったりする学生も多い。自販機を使うことで、学生が実際に行動できるよつになってくれればうれしい」と話した。

（森本尚平）

2022年9月21日（水） 中日新聞 朝刊17面より  
この記事は中日新聞社の承諾を得て転載しています。